

完了後の評価個表

| | | | |
|--------------------|---|--------|------------------------------------|
| 事業名 | 森林環境保全整備事業（国有林） | 事業実施期間 | 平成 27 年度～令和元年度（5 年間） (平成 31 年度) |
| 事業実施地区名 (都道府県名) | (ひだか) 日高森林計画区 (北海道) | 事業実施主体 | 北海道森林管理局 ひだかなんぶ 日高南部森林管理署 |
| 完了後経過年数 | 4 年 | 管理主体 | 日高南部森林管理署 |
| 事業の概要・目的 | <p>本事業は、北海道の中央南西部に位置する、新ひだか町を含む 4 町に所在する約 130 千 ha の国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区のうち、当署管内は、東側に急峻な日高山脈が南北に走り、幌尻岳、カムイエクウチカウシ山、ペテガリ岳、神威岳など 1,500m を超える高峰がつらなり、南側は長く海岸線が太平洋に面している。</p> <p>また、新冠川、静内川、三石川、元浦川などの河川から豊かな水量を下流部に供給することにより、コンブに代表される沿岸漁業やカレイの栽培漁業などの地域産業に重要な役割を果たしている。</p> <p>南端のえりも岬を中心とする一帯の国有林全域が日高山脈襟裳十勝国立公園であり、岬の断崖と岩礁が連なる急峻な地形を特徴とする海岸域を含んでいる。</p> <p>また、昭和 28 年からの緑化事業により「えりも砂漠」と呼ばれた海岸沿いの荒廃斜面に蘇った森林を称え、植樹祭や育樹祭などの記念行事や地元住民に向けた講演会、パネルディスカッションが開催されている。</p> <p>森林の現況は、トドマツ（69%）を主な樹種とする人工林約 13 千 ha と、天然林面積は約 106 千 ha から成り、森林の蓄積は北海道の全道平均 145 m³/ha に対して、144 m³/ha となっている。</p> <p>当署管内の総面積の約 94% が水源涵養を主な目的とした保安林に指定されており、流域内のみならず、河川を通じて沿岸海域にも栄養分等を供給していることから、基幹産業である農業や漁業などの地域の資源保全に重要な役割を果たしている。</p> <p>一方、人工林の齡級構成は、約 89% が 7～12 齡級で、その中でも主伐期とされる 10 齡級以上の割合は約 65% を占め、森林資源の本格的な利用期を迎えていため、針広混交林や複層林へ計画的に誘導し、木材を安定的に供給するほか、間伐の適切な実施や主伐後の確実な更新を図るなど、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>このため、本事業は森林の有する公益的機能の持続的な発揮を通じて地域住民の生活と産業の振興に資するとともに、国産材の安定供給体制の構築及び地球温暖化防止にも貢献するため、森林整備を積極的に推進し、そのために森林整備の</p> | | |

| | |
|-------------------------------|---|
| | <p>効率的な実施に必要な路網整備を実施したものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な事業内容 森林整備　更新面積　　29ha 　　　　　　　　保育面積　　3,315ha 　　　　　　　　路網整備　開設延長　　10.5km 　　　　　　　　改良延長　　0.1km ・総事業費　2,006,306千円（税抜き　1,850,796千円） (平成26年度の評価時点　2,105,830千円（税抜き　1,949,843千円）) |
| <p>① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化</p> | <p>令和6年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、実行段階における優先度を勘案した事業の実行に伴う事業量の変動や事業地の奥地化及び急傾斜地など作業条件の厳しい箇所が多かったこと、さらには平成25年度から令和6年度までおよそ76%上昇している公共工事設計労務単価によるものである。</p> <p>総便益 (B) 15,821,443千円（平成26年度の評価時点：18,661,749千円※） 総費用 (C) 3,901,973千円（平成26年度の評価時点：2,743,549千円※） 分析結果 (B/C) 4.05（平成26年度の評価時点：6.80）</p> |
| <p>② 事業効果の発現状況</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・更新、保育によって適正に森林が整備され、水源涵養や山地保全、二酸化炭素の固定等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・林道等の路網整備により、車両の通行可能範囲が広くなったことにより、森林整備事業地までの所要時間や木材の搬出距離が短縮されることで木材生産の経費縮減が図られた。 ・計画的な事業の発注を通じて、雇用の場を提供することにより、地域の社会経済に貢献した。 |
| <p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・整備された森林は、継続して適切に管理しており、良好な状態である。 ・整備された林道は、適切に維持・管理しており、良好な状態である。 |
| <p>④ 事業実施による環境の変化</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・水源涵養や山地保全の機能が十分に發揮できる森林が形成され、環境を良好な状態で維持している。 ・周囲の環境と調和した森林施業は自然景観を保持し、保健機能等を充実させ、環境保全に寄与している。 |
| <p>⑤ 社会経済情勢の変化</p> | <p>木材生産現場では令和3年度における北海道の林業就業者数はおよそ4,208人で、平成27年度は4,272人、平成29年度は4,253人、令和元年度は4,269人と横ばいで推移している。</p> <p>人工林が利用期を迎える、伐採などの素材生産事業の事業量が増加しているが、一方で機械化などによる作業効率の向上が進み、労働生産性は高くなっている。</p> <p>年間を通して林業に従事する通年雇用者が増加し、令和3年度は2,800人ほどで、平成27年度時の2,100人と比べると増加し、従事者全体の66%である。</p> |

| | |
|-----------------|---|
| | <p>ただし、平均年齢は平成 27 年度から令和 3 年度の間、およそ 50 歳で概ね横ばいで推移しているが、60 歳以上の割合は依然として全体の 30% を超えていて、林業に従事する後継者の確保が課題となっており、作業の機械化による安全性や労働条件の向上が若年層の就業定着に大きく影響している。</p> <p>また、木材利用現場では、北海道内では木質バイオマスの需要拡大や道産建材の利用拡大の取組が展開され、木材需要拡大が見込まれている。</p> <p>こうした状況の中、国有林においても、森林・林業・木材産業の成長産業化に寄与するため、厳しい自然条件の克服や新たな作業システム等に応じた路網整備を推進するとともに、水源の涵養、国土の保全、木材等の生産といった森林の多面的機能が発揮されるよう、森林整備を進めることが求められている。</p> |
| <p>⑥ 今後の課題等</p> | <p>森林資源の適正な管理・循環利用を図りながら森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画に基づき着実に森林整備、路網整備を実施する必要がある。</p> <p>事業の実施に当たっては、今後の施業を想定した効果的な路網配置に加え、コシテナ苗の活用、伐採と造林の一貫作業及び下刈りの機械化により、森林整備の省力化及び低コスト化に資する取組を推進することが課題となる。</p> <p>また、森林による二酸化炭素の吸収に対する期待や北海道産材の需要の高まりに応じた木材の安定供給体制を構築するなど、北海道の林業・木材産業及び地域振興に貢献する取組が求められる。</p> <p>なお、これらの取組は、関連する地域の自治体や林業事業体と現地検討会等を通じて技術の共有を図り、普及に向けて連携することが重要である。</p> <p>さらに、「日高山脈襟裳国定公園」は、令和 6 年 6 月 25 日新たに「日高山脈襟裳十勝国立公園」に指定されたことから、より自然環境の保護と利用の両立を図りながら、地域の自治体や関係団体と連携し、手つかずの自然が生む森林景観の保全に向けた取組が求められる。</p> <p>地元の意見 :</p> <p>(北海道)</p> <p>森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。</p> <p>今後とも道や関係市町村等と情報の共有を図りながら、森林整備を推進していただきたい。</p> <p>(新冠町)</p> <p>国有林は当町に所在するダムの上流部を占めており、間伐を主体とした森林整備が実施されたことにより、森林の持つ多面的機能の発揮と、良好な森林の形成がされたことは高く評価する。</p> <p>今後も、森林の持つ多面的機能が持続的に発揮されることを要望するとともに、地元の雇用対策に効果が見込まれるため、今後も持続的に事業を実施される</p> |

| | |
|-----------------------|---|
| | <p>ことを要望する。</p> <p>(新ひだか町)</p> <p>国有林は、新ひだか町に所在するダムの上流部を占めており、保育間伐を主体とした森林整備にご尽力いただき、森林の持つ多面的機能の発揮と良好な森林が造成されたことについて高く評価する。</p> <p>今後も森林の持つ多面的機能が持続的に発揮されるとともに地域の林業林産業等の育成に効果が見込まれるので、引き続き森林整備事業の実施について要望する。</p> <p>(浦河町)</p> <p>町内の森林面積のうち 40%以上が国有林であり、森林整備が適切に実施されたことにより、森林の持つ多面的機能が発揮されたと評価できる。</p> <p>今後も同事業の継続と国有林の整備を要望する。</p> <p>(えりも町)</p> <p>当町の国有林で森林環境保全整備事業は実施されてはいないが、保安林整備事業により海岸林の整備を継続的に実施していることにより、良好な森林の形成がなされたことは高く評価する。</p> <p>今後も事業を継続し、複層林化への誘導と緑化困難地への植栽を要望する。</p> |
| 森林管理局事業評価 技術検討会の意見 | 本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認められる。 |
| 評価結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 本事業は、水源林の保全及び基幹産業である農業及び漁業の振興に資する観点から、森林の有する水源涵養機能をはじめとする多面的機能の発揮に重要な役割を果たしている。 また、市町村連絡会議の設置や森林整備推進協定により、民有林行政との連携を推進する機会を設けたり、森林教室や植樹・育樹祭を開催するなど地域社会の林業活性化に寄与する観点からも事業の必要性が認められる。 ・効率性： 事業採択時と比較すると、事業量の変動などにより B／C は低減したが、現況に即した路網配置や路網と高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着が図られるなど、事業の効率性が認められる。 ・有効性： 本事業により、森林の有する多面的機能が一層発揮され、引き続きその効果が発現されると見込まれる。 また、水源涵養や山地保全の機能が発揮され、基幹産業の振興や地球温暖化防止に寄与していることからも、事業の有効性が認められる。 |

※平成 26 年度の評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

都道府県名：北海道

施行箇所：日高森林計画区(日高南部森林管理署)

(単位:千円)

| 大区分 | 中区分 | 評価額 | 備考 |
|-------------|-------------|--|----|
| 水源涵養便益 | 洪水防止便益 | 3,527,849 | |
| | 流域貯水便益 | 831,126 | |
| | 水質浄化便益 | 3,400,121 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 4,289,882 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 959,072 | |
| 木材生産等便益 | 木材生産経費縮減便益 | 326,903 | |
| | 木材利用増進便益 | 518,971 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 732,183 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 森林管理等経費縮減便益 | 8,759 | |
| | 森林整備促進便益 | 1,226,577 | |
| 総便益 (B) | | 15,821,443 | |
| 総費用 (C) | | 3,901,973 | |
| 費用便益比 | | $B \div C = \frac{15,821,443}{3,901,973} = 4.05$ | |

森林環境保全整備事業 日高森林計画区 事業概要図（日高南部森林管理署）



| 凡 例 | |
|-------------|--|
| 国 有 林 | |
| 主 要 山 岳 | |
| 鉄 道 | |
| 森 林 計 画 区 界 | |
| 市 町 村 界 | |
| 森 林 管 理 署 | |
| 森 林 管 理 署 界 | |



新設工事



下刈



保育間伐

